

●グローバル化時代の医療・検査事情 14

雲南の旅 その4
瑞麗(レイリ)_2013年

いわもと あい きち
岩本 愛吉
Aikichi IWAMOTO

2013 年は忙しい年だった。2009 年 4 月から 4 年間務めた日本感染症学会の理事長職を 4 月に終了したが、6 月 5 - 6 日の 2 日間パシフィコ横浜で第 61 回日本化学療法学会総会(戸塚恭一会長)との合同学会を、第 87 回日本感染症学会学術講演会会長として主催した。この合同学会は、日本化学療法学会が招致した第 28 回国際化学療法学会(International Congress of Chemotherapy and Infection : ICC)とも同時期同会場で並行開催となっていた。ICC の準備期間を通じて台湾の薛博仁(シュー・ポーレン)教授、英国アバディーンのイアン・ゴールド(Ian Gould)教授などと知り合う機会があった。薛教授から、2013 年 8 月 23 - 24 日に上海で開催する第 3

回上海国際臨床微生物・化学療法学会の HIV のセッション座長を頼まれた。そういうわけで、2013 年の雲南の旅は上海経由となり、帰国途中に上海に立ち寄った。

8 月 13 日、10:55 発の中国東方航空 MU272 便に乗り、成田から上海へ飛んだ。13:00 頃上海浦東(プートン)国際空港に着陸した。昆明行き MU2421 便は、約一時間遅れで 16:00 頃離陸した。途中四川省南充(ナンチョン)に一旦着陸し、一部の乗客を入れ替えて、20:30 頃昆明(クンミン)長水(チャンスイ)国際空港へ到着した。空港では李洪(リ・ホン)部長が待っていてくれ、雲南 CDC に近い威龍酒店(ウェイロン・ホテル)にチェックインした。深夜だったが、腹が空いているだろうと、李洪部長とホテルの前の小さな回族料理店でバーベキューとうどんを食べた。

今回の目的地は雲南省の西端、瑞麗(レイリ)市である。瑞麗は徳宏(ダ・ホン)傣(ダイ)族景頗(ジンポー)族自治州の地級市でミャンマー国境に位置している。1989 年、雲南省で初めて 146 人の HIV 集団感染が発見された場所である¹⁾。

I. 祥雲の茸鍋

8 月 14 日 8:00 ホテルを出発。李洪部長、雲南 CDC の莫冷鶴(モー・ランフウ)さんとお嬢さんの王思璇(ワン・シシュアン)が同行した。前夜遅くに広州から昆明に着き、別のホテルに投宿していた中山大学の劉煥亮(リュウ・ファンリヤン)教授を拾って、西方へ出発した。大理州祥雲(シャンユン)県で高速をおり、出迎えてくれた李彦紅(リ・イエ



図 1 2013 年瑞麗への行程

★が宿泊した昆明(8月13日)、保山(14日)、瑞麗(15日、16日)、隴川(17日)、芒市(18日)、和順(19日、20日)、昆明(21日)。

ンホン) 祥雲 CDC 所長の案内で街中のレストランに直行した。辺りは雲南でも茸の本場で、通常8月前半がベストシーズンだという。様々な色や形をした12～13種の茸が次々と運ばれてきた(写真1)。テーブルの中央には鍋が置かれ、まず3種類をグツグツと20分ほど煮立てるのだという。その理由を聞いた。

「どうして3つだけ先に煮るの？」

「毒があるから。」

「えっ、毒茸も食べるの！」

生で食べる茸は1種類だけで、松茸に似ていた。山葵と醤油で食したが、味も香りも日本の松茸にはほど遠い。やはり日本の松茸は別格だ。

昼食後、立派な城門を備えた祥雲の中心街を散策

した(写真2)。道ばたで女性がレジ袋に茸を入れたり、シートに果物を並べて零細な商いをやっている。おそらくその朝自分で収穫してきたものを売っているのだろう。祥雲 CDC を訪問した後(写真3)、高速道路に戻り、保山市(バオシャン)に向かった。

Ⅱ. 保山

保山市では、鄭維斌(ジョン・ウェイ・ビン)保山 CDC 所長が秘蔵の白酒を持参し、夕食会が始まった。鄭所長は気さくな人だった。秘蔵の白酒となれば、杯を重ねないわけにはいかない(写真4)。この夜も飲み過ぎとなった。

8月15日午前中、鄭所長の案内で保山 CDC を訪



写真1 祥雲県での茸鍋



写真2 祥雲の中心部で李彦紅祥雲 CDC 所長と



写真3 祥雲 CDC 前で李洪部長と筆者

問し、HIVのカウンセリング・検査 (Voluntary Counselling and Testing : VCT) 施設、ウイルス分離室、PCR施設などを見学した(写真5)。インフルエンザウイルスやEV71などの分離、検査を行っているという。

保山 CDC 見学後、西に向かう。保山市から徳宏(ダホン)州に入ると間もなく高速道路の終点となった。徳宏州の州都は芒市(マンシ)といったが、潞西市(ルゥシーシ)から改名したばかりのようだった。実際、筆者の持つ地図上では潞西市のままだった。芒市では魏明(ウェイ・ミン)徳宏 FDA 所長の招待で昼食会が開催された。魏所長夫人、経理部長、呉老三(ウ・ラオ・サン)徳宏 CDC 副所長などがやってきて、われわれが談笑している間に、中央に草花を配置した大きな円卓に素晴らしい地域料理が並べ



写真4 鄭保山 CDC 所長、劉教授と白酒で乾杯



写真5 保山 CDC 施設見学



写真6 徳宏料理で昼食

られた(写真6)。

昼食後、魏所長の車に先導して貫って瑞麗に向かった。豪雨で道が閉ざされており、大きく北に迂回せざるを得なかった。隴川(ロン・チュアン)県で夕食を取り、瑞麗のホテルに入ったのは22:00頃だった。Ruili New Keitong International Hotel泊。

Ⅲ. 熱帯雨林と瀑布

雲南の辺境に入ると、山を切り崩して取り付けただけの道が多い。豪雨が降ると土砂崩れが起りやすく、至る所で道が寸断されている。地元の人の案内がなければ、適当な迂回路を見つけるのすら難しいだろう。魏所長の車が先導してくれたのはありがたかった(写真7)。8月16日午前中、瑞麗近郊の熱帯雨林公園を見学し、不思議な花や熱帯の植生を見聞した(写真8)。公園の最深部にはすばらしい滝があった(写真9)。乾燥が強く、広大な平地から成る中国ではなかなか珍しい。



写真7 魏所長の先導で土砂崩れした道を進む



写真8 瑞麗近郊熱帯雨林公園で見た不思議な花



写真9 瑞麗近郊の熱帯雨林公園の最深部にある瀑布

IV. 瑞麗

8月16日午後には、瑞麗 CDC 副所長が HIV 感染者の自宅に案内してくれた。中国ではたいへん有名な患者さんらしい。1989年に雲南で最初に発見された集団感染146人中の一人で、診断後24年経った2013年時点の生存者は5人(146人中3%)ということだった。写真撮影も問題なかったが、掲載するのは控えておく。治療薬のことも話題になったが、抗 HIV 薬をきちんと服用しているわけではないらしい。希少な免疫能の保有者なのだろう。何人もの著名な研究者に供血したとのことだった。患者さんの家を辞すると、オーストラリア政府の支援を受け、ミャンマー国境で HIV/性感染症の診療や患者支援をしている中国の NPO、HAAP の事務所兼診療所、HIV 感染者の支援を行う寺院や瑞麗 CDC などを訪問した。

V. ミャンマー国境

瑞麗では茶髪若い男性が目立つ。李洪教授によ

れば、彼等はミャンマー人やインド人、パキスタン人などらしい。瑞麗近郊には合法、非合法のミャンマー人が10,000人程度居住しているという。

ローズウッド(紫檀)は、茶色、赤茶色をした木材である。ミャンマー産のローズウッドはオレンジ系の茶色で、本紫檀とは違うという意味で「手違紫檀」と呼ばれることもあるらしい²⁾。紫檀ほどの値打ちは無いようだが、ローズウッド製の重厚な家具は中国人の間で人気がある。瑞麗は、ミャンマーからローズウッドや翡翠、琥珀等を持ち込み、中国産の工業製品や農産物を積んで帰る長距離トラック輸送の中継地である(写真10)。アフリカでは、1980年代にアフリカ横断道路が完成し、長距離トラックによる物流が一気に加速した。中継地で暫しの休息と快楽を求める長距離トラックドライバーが増加し、コマーシャル・セックスが盛んになった。一人のコマーシャル・セックスワーカー(Commercial sex worker: CSW)が HIV に感染すれば、その CSW から他のドライバーに感染し、そのドライバーが他の地域でさらに感染を拡大させる。アフリカ横断道路の完成は、地域に局限していた HIV が一気に中央アフリカ全域に拡大した一因となったと考えられている。アジアでも同様ではないか? ミャンマーと中国の国境に位置する瑞麗では、国を越えた長距離輸送を担うドライバー相手のコマーシャル・セックスが横行しているらしい。

8月17日、瑞麗を発つに当たって翡翠を売る店に立ち寄った。女性陣ばかりではなく、男性も夢中になって観察し、価格交渉をする。その後、ご主人が魏所長の友人という莫里山茶店へ立ち寄り、普洱茶をたくさん飲んだ。お昼の料理も全てお茶を使っ



写真10 瑞麗の駐車場における多数の長距離トラック

たものだという。ご主人から達筆な腕前を披露して頂いたが、調子に乗って筆者も「我愛莫里山茶」「格物致知」「格茶致福」など、字を書いた(写真11)。

魏所長と奥さんが急用で芒市に戻らねばならないこととなった。われわれは、瑞麗の北方にある隴川(ロンシャン)へと向かったが、土砂崩れで山道を迂回しなければならなかった。午後4時頃、隴川のホテルにチェックインした後、約8km離れた洋人街(雷基)に行って国境を見学した。国境を越える交通量の多い瑞麗近郊では、立派な国境ゲートがあったが(写真12)、洋人街(雷基)では、竹柵の切れ目に国境標識があるだけで、近隣の少数民族などは自由に行き来している様子だった(写真13)。少し歩けば竹柵が壊れているところもあった。ある程度人々が自由に行き来できる場所には、撮影禁止マークが張られていた。

8月18日、往路土砂崩れのあった道路はほぼ修復されており、約3時間で芒市へ着いた。この日は徳宏CDCの招待で景頗(ジンポー)料理のレストランで食事をしたり、巨木を使った彫刻や奇妙な岩



写真13 瑞麗北部、隴川に近いミャンマー国境

石を多数陳列した市内の庭園を散策した。景頗族は、青海省からチベット高地にいたチベット族とは別の民族で、かなり前に大河に沿って下ってきたらしい。案内板に100万年前と書いてあったが、いくら何でもそれはおかしいだろう。景頗族は、徳宏州に約130,000人いるとのことだった。

VI. 騰沖と和順

8月19日、騰沖(トンチョン)方面に向かって走り、和順(フー・シュン)へ入った。毛沢東時代に生きた雲南省のマルクス・レーニン主義者、艾思奇(アイ・スーチー)の生家を見学した後、和順の紅橋楼(ホンチャオロウ)という四合院造りの民宿に入った。昔のたたずまいを残す集落として、和順は中国でも10指に入る、と劉さんが言っていた。紅橋楼では、筆者のために2階の先端の素敵な部屋を確保してくれてあった(写真14)。昼間は暑かったが、夕方から気温が下がって快適な気候になった。



写真11 我、莫里山茶を愛す



写真12 瑞麗近郊のミャンマー国境



写真14 和順の紅橋楼。2階先端の部屋に宿泊

夕食は約 20km 走って徳宏に戻り、梁河（リャン・フー）CDC の所長、副所長の招待で夕食会となった。傣族でも景頗族でもない少数民族の女性が同席したが、かわいそうに白酒でひどく酔ってしまった。我々は紅橋楼に戻って眠った。

8月20日午前7時に起床。朝靄がゆっくりと晴れてゆく、すばらしい朝だった。みんなで近所の小さな食堂に出かけ、うどんを食べた。司馬遼太郎が書いているように雲南の食事は日本人に合う。午前中は、明代から知られている有名な温泉（騰沖熱海国家重点風景名勝区）に出かけた。熱湯が奔流となって川を流れ下る。川の脇では、鍾乳洞で見られる石筍のようなロケット型の岩から沸騰水が噴き出している（写真15）。すごい湯量だ。この温泉では中国語以外に、日本語の案内があちこちに見られた。なぜかと訝っていると、かつて騰沖あたりではビルマ（ミャンマー）から北上してきた日本軍と、米軍に支援されて西進してきた蒋介石軍が、怒江（ルージュン）を挟んで激しい戦闘を重ね、多数の戦死者が出た。今も遺族を中心に多数の日本人がこの地を訪れるということだった。最後に足湯を楽しみ、紅橋楼に戻った。近所の食堂で地元料理の昼食、なかなか美味しい。紅橋楼にはなんと無料WiFiがあり。宿の女将がiPadを使っていた。

午後は莫さんの娘の王さんと和順の村道を散策した。暑かった。郷土資料館に入ったが、日本軍と戦ったのは人民解放軍であるかのように単純化されていた。もっと歴史を知らなければならない、と自省した。夕方少し休んでメールを見た後、騰沖 CDC を訪問し、1903年に建てられた騰沖 CDC で一番古い研究棟などを見学した。なんと110年前の木造の建



写真16 騰沖 CDC の最古の研究棟前で陳所長と

物だ（写真16）。その後、騰沖 CDC の食堂にて陳所長、副所長と夕食を共にした。

紅橋楼に戻ってから散歩に出ると、案の定、李さん、劉さん、莫さんが翡翠屋で物色していた。筆者も信頼できる同行者を選んで貰って、女房の土産に小さな翡翠を手に入れた。夜11時過ぎには、たくさん商品を買って貰って喜んだ翡翠屋の主人が、我々をバーベキューに誘ってくれた。李さん、劉さんと連れ立って川端の露天に出かけた。5歳の息子と甥を連れた翡翠屋の主人が待っていて、バーベキューと地ビールを勧めた。

アルコールは2.5%と薄いらしいが、1時間位の間に5人でなんと15本も飲んだ。雷鳴が轟き始めたため、午前00:30頃、劉さんと2人で戻ることにしたが、紅橋楼に入るやいなや大粒の雨が滝のように降ってきた。翡翠屋の主人と李さん達はしぶ濡れになったに違いない。ビールの飲み過ぎで何度もトイレに起き、眠れぬ夜だった。

Ⅶ. 昆明

8月21日7時集合。昨日と同じ近所の食堂に行つて、うどんを食す。和順を出発して山道に入ったところでひどい霧となった。保山手前で、高速道路が遮断されていたので山道を約50～60km迂回し、高速道路に戻って怒江大橋を渡った。怒江はすごい河だ。濃い霧もこの大河が発生させるに違いない。旧日本軍がこの河で進軍を止められたというのも納得できる。河の兩岸の山はなだらかで、山の頂点と頂点の距離が遠い。河が大地を切り裂き、両側の山



写真15 熱湯の流れる河と沸騰水の噴出



写真 17 趙尚徳前 CDC 所長と、雲南 CDC 食堂にて

並みが長い時間をかけて丸みを帯びたのだろう。河面は見え、高速道路は遙か高みに建設されている。高速道路を支える橋脚は所によって高く、たいへんな難工事の末完成したであろうことが推察される。雲南を走る運転手はたいへんだ。高速道路あり、山道あり、霧あり。しかもこの日1日だけで約700kmも運転した。17:45頃、昆明の威龍酒店にチェックインした。

19:00 雲南 CDC の食堂で、香格里拉に同行してくれた趙尚徳(ジャオ・シャンデ)前 CDC 所長が待っていてくれ、会食した。趙所長は肺がんが見つかったから約2年。少しやせたが元気だ。さすがに酒はやめ、たばこも時々手を出すくらいらしい。来年も昆明で会おうと言ってくれた(写真17)。

8月22日、昆明最後の日。標高は睡眠に影響するようだ。何度か目が覚めた。さすがに少し長旅の疲れが出たらしい。ベッドを離れにくい。午前8時に劉さんと朝食をとり、李さんと瑞麗に同行した運転手が空港まで連れて行ってくれた。約2時間30分のフライトで上海紅橋(ホンチャオ)空港に到着した。和順で泊まった宿と同じ名前の空港だ。

VIII. 上海番外編

上海では8月23日、24日と第3回上海国際臨床微生物・化学療法学会に参加したが、8月24日の学会終了後に起こった番外編だけ記述する。

学会は上海のシンボルマークでもあるテレビ塔の傍の国際会議場だった(写真18)。歌などにもよく出てくる租界や旧市街に行ってみようと、地下鉄2

号線で東南京通り(East Nanjin Road)駅まで行き、川沿いに外灘(バンド)を歩いた(写真19)。かつてのフランス租界あたりから旧市街(写真20)を目指して地図の示す方向に歩いた。中国にはしょっちゅう来ているし、北京ではしばしば中国人と間違われて、道を聞かれたりもする。リラックスした普段着で、自分は充分あたりに溶け込んでいると思っていた。



写真 18 上海浦東(プートン)の高層ビルと東方テレビタワー



写真 19 黄浦江(ホアンプーチャン)と外灘(バンド:英語名)



写真 20 上海旧市街

しばらく歩いたところで、若い中国人風のカップルに呼び止められた。男の方がニコンの一眼レフを手をしている。二人の写真を撮って欲しいということらしい。引き受けると、カメラを縦にしても撮って欲しいなどと要求した後、男の方が流量な日本語で話しかけてきた。北京の日系自動車工場で働いているという。お祖父さんが沖縄出身で、自分はハルビン生まれの中国人だが、海野太朗という日本名を持つという。「これから小さな茶店の茶会に行くところですが、一緒に行きませんか？」と誘われた。名前や話がちょっとできすぎだと思ったが、相手はしつこく食い下がってきた。女性の方は可愛かったし、日本語は片言でも流暢な英語を話した。結局ついていくことにした。茶店は旧市街にあった。3人で座るのが精一杯の小部屋に通された。全く愛想のない痩せた女性が差し出したメニューを見ると、高い。どれにするか迷っていると、海野氏が6種類のお茶を飲めるコースを頼んだ。一 종류ずつ急須一杯のお茶を3人で分ける。愛想のない女性が次々と6種類のお茶を注いでいった。コースが一通り終わったところで、自分用の土産を買うと言いながら、男がポケットからカードを取り出した。筆者もどうだと勧められたが、それを断ったかわりに、せっかく

連れてきて貰ったからと、お茶コースの料金を支払うことを申し出た。請求書を見ると、何と1,209中国元(約20,000円)だった。小さなお茶とお守りを貰って店を出た。店の外で二人の写真を撮った。男の方は日本の指でピースサインをしながら舌を出した。次第に、「やっぱり騙されたんだ」という気になって腹が立ってきた。夕食にも誘われたが断って、二人と別れた。

どこかに訴えようかとも迷ったが、考えてみれば全て自分から申し出たことである。「まだまだ修行が足りないな」「中国人の間に溶け込んでいるつもりでも、まだまだ甘いな」と反省した。2013年8月25日、中国東方航空 MU521 便で浦東空港から成田へ飛んで帰国した。

文 献

- 1) 岩本愛吉。「雲南の旅 その1 なぜ雲南か?」。モダンメディア 63(2): 22-25, 2017。
- 2) ローズウッド。ウィキペディア。2017年6月25日閲覧。
[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%82%BA%E3%82%A6%E3%83%83%E3%83%89_\(%E6%9C%A8%E6%9D%90\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%82%BA%E3%82%A6%E3%83%83%E3%83%89_(%E6%9C%A8%E6%9D%90))